

外来ウナギ大量輸入

26.7.25
宮日

不透明取引横行か

絶滅危惧種に指定され国際取引が規制されているヨーロッパウナギや、地元当局が輸出を禁止しているフィリピン原産の稚魚など、外来種ウナギが大量に日本に輸入されていることが財務省の統計や関係者の話で24日、分かった。

透明な取引が横行している可能性がある。「日本人は世界中のウナギを食べ尽くすのか」と批判される前に対策を進めるべきだ」との声が出ている。

財務省の貿易統計によると、昨年11月からことし5月までの間に、ワシントン条約に基づく国際取引規制の対象となり、欧州連合（EU）が輸出を自粛しているヨーロッパウナギの成魚が、フランスから中国経由で7万7800匹輸入されたほか、フィリピンやインドネシアで漁獲された成魚の輸入もあった。

またフィリピン政府が「シラスウナギ」と呼ばれる稚魚の輸出を禁止しているにもかかわらず、フィリピンからの養殖用稚魚の輸入が1949匹あった。インドネシアから543匹の養殖用稚魚が輸入されていた。

本鰻輸入組合と説明。フィリピン産についても「禁止されているシラスウナギではなく、養殖池で大きくしたクロコと呼ばれる稚魚だ」としている。

環境保護団体グリーンピース・ジャパンの花岡和佳男さんは「絶滅危惧種のヨーロッパウナギを大量に消費すべきではないし、資源状態が不明な東南アジアからの輸入も慎むべきだ」と主張している。

外来種ウナギの輸入量

ヨーロッパウナギ (成魚)	7万7800*
フィリピンのウナギ (養殖用稚魚)	1949*
インドネシアのウナギ (養殖用稚魚)	543*

2013年11月から14年5月まで

またフィリピン政府が「シラスウナギ」と呼ばれる稚魚の輸出を禁止しているにもかかわらず、フィリピンからの養殖用稚魚の輸入が1949匹あった。インドネシアから543匹の養殖用稚魚が輸入

米国ウナギ 実は欧州種

グリーンピース調査

環境保護団体のグリーンピースは10日、広島市のスーパーがアメリカウナギとして仕

入れたものが、実際はワシントン条約で国際取引が規制されているヨーロッパウナギだったなどとする市販ウナギの遺伝子解析結果を発表した。指摘を受けた販売元は関連ウナギ商品の取り扱いを中止したという。

グリーンピースは「絶滅危惧種のヨーロッパウナギが不正に輸入され、日本で流通している可能性が高い」として、水産庁に実態調査や貿易管理態勢の強化を求める要請書を提出した。

26.7.11 宮日